

良き伝統から新しい文化の創造へ

千葉県こども歌舞伎アカデミー

みなさんは、千葉県こども歌舞伎アカデミーをご存知ですか。

「重要無形文化財に指定されている日本の誇り“歌舞伎”の素晴らしさを子どもたちに伝えていこう!!」と、平成18年に立ち上げました。

今年も県内各地の小中学生が集まり、平成25年3月17日(日)「こども歌舞伎公演」にて披露する「加賀鳶」「梅ごよみ」「二人袴」を花柳貴答先生と花柳紘駒先生の指導のもと、稽古に励んでいます。

衣裳、かつら、歌舞伎独特の化粧で演じるさまは、まさしく歌舞伎役者そのものです。

「こどもが歌舞伎!?!」「本当にできるの?」と思ったみなさん、ぜひ動画をご覧ください!



USTREAM

現在「三人吉三巴白浪」公演を動画サイト Ustream より配信しています。

Ustream サイト内の検索エンジンにて“千葉県こども歌舞伎アカデミー”

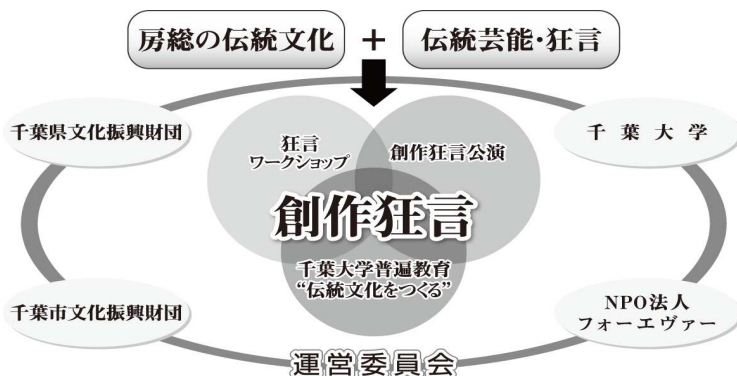
を検索して下さい。

千葉県こども歌舞伎アカデミー

見る、知る、伝える千葉～創作狂言～ 運営委員会

『千葉県の民話や伝承』と、『日本の伝統芸能である狂言』を新たな形に融合し、未来に継承・発展させる運営委員会を設立しました。下図のように連携する4団体は、公演を素晴らしいものとするために、それぞれの特色を活かし様々なアイデアを出し合いながら取り組んでいきます。この運営委員会の設立により、地域の団体・学校の英知を結集した公演になることでしょう。

今年は山武郡横芝光町に伝わる、地獄の様相と菩薩の救いを説いている全国唯一の古典的地獄劇「鬼来迎」が題材です。チラシのデザインは、千葉大学の学生さんが担当しました。様々な創意と工夫で鬼来迎のイメージを彷彿させるチラシが出来あがりました!





人形劇団によるワークショップや、普段見ることの出来ないホールの裏側を学ぶ「けんぶん探検ツアー」など、さまざまなプログラムを通して「子どもたちにもっと身近に舞台芸術を体験してもらおう!!」と「子どもの舞台芸術体験ひろば2012in ちば」を開催しました。総勢200名を超える子どもたちが集まり、楽しく学んでいました。



このイベントには、インターンシップ(就業体験)として千葉商科大学の学生さんも参加しました。スタッフの立場でお客さまをご案内することはもちろん、時には子どもたちに混ざり「体験側」に立つなど『さまざまな角度からの舞台芸術』を学ぶことが出来たようです。「他の友人たちに自慢出来る、素晴らしいインターンシップだった!!」と、胸を張って帰っていく学生たちの背中がとても頼もしく思えました。



クラシック界のミューズ 森麻季の魅力



千葉県東総文化会館

透明感ある美しい声と華のある容姿で人気の高い森麻季さんは、深い音楽性と多彩な表現力で世界バレーの開会式での独唱や、NHK スペシャルドラマ「坂の上の雲」のメインテーマを歌うなど、まさしく日本を代表するオペラ歌手として注目を集めています。

昨年、被災地で開催したいくつもの演奏会で、「一人一人の力は小さくても想いを共有すれば必ず希望につながる」ということを実感した彼女は、音楽には人を勇気づけ幸せにする力があり、愛すること、喜びを大切にすることが平和につながると信じ、祈りをこめて歌い続けています。

深まりゆく秋に、クラシックを優雅に味わいたいという皆さん! いま最も輝いている歌姫、森麻季さんのエレガントなりサイタルに足を運んでみませんか。清らかに澄んだ歌声が、優しく包みこんでくれることでしょう。心に沁みる愛の歌を、ぜひお楽しみください。

2012年10月8日(月・祝) 15:00 開演 ソプラノ・リサイタル 森麻季 一心に沁みる愛の歌



アロイシウス・オーケストラと共演



千葉県少年少女オーケストラ

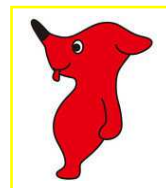
千葉県少年少女オーケストラは、8月2日(木)サントリーホールで、韓国・釜山のアロイシウス・オーケストラと、チョン・ミンさんの指揮によるマーラーの交響曲第1番ニ長調「巨人」を披露しました。本番に向けて練習を重ねるごとに、韓国と日本の子どもたちが互いに刺激しあいながら成長し、素晴らしい演奏会となりました。



<終演後の記念撮影>



<チョン・ミンさん>



胸元にはプレゼントしたチーバくんがキラリ☆

*** チョン・ミンさんへのインタビュー ***

(演奏会を終えての感想は?)

本当によかった!釜山と日本の子どもたちが一緒に演奏でき、親しくなれたことがとても嬉しい。

(千葉県少年少女オーケストラの印象は?)

みんなとても一生懸命だったことが印象的だった!

みんなに出会えて、とてもよかった。出来れば、毎年一緒に、このような演奏会が出来たら嬉しい。

編集後記

秋気が心地よく身に沁みる季節になってまいりました。みなさんに素敵な“芸術の秋”をお届けできるよう、頑張っています!みなさまどうぞ、一年に一度のこの“秋”をご堪能ください。